

今回の調査区 風景写真（北上空から撮影）



### まとめ

下平大野B遺跡では、これまでの調査で、竪穴建物と掘立柱建物がみつき、弥生時代中期（約2,300年前）の集落の存在が確認されています。今回の調査区でも、掘立柱建物のほか、甕や壺などの弥生土器がみつき、弥生時代中期の集落がさらに北側に広がるということが判明しました。

下平大野B遺跡のある京ヶ野台地上では、ほかに下平大野A遺跡や空畑遺跡などで、縄文時代の遺構・遺物を発見しており、古くから人々がくらす地域だったことがわかります。下平大野B遺跡は、田切川との比高が20mほどの位置にあり、今回の調査区も水はけのよい場所です。当時の人々は、水害に遭いにくい所を選んで生活していたようです。

弥生時代を生きたいなべの先人たち。発掘調査で発見された遺構や遺物を通して、その悠久の歴史をご想像していただけるよう、今後も調査を進めて参ります。

遺跡名 下平大野B遺跡（第4次）  
原因事業 東海環状自動車道建設事業 調査委託 国土交通省中部地方整備局 調査主体 三重県教育委員会  
調査担当 三重県埋蔵文化財センター  
〒515-0325 三重県多気郡明和町竹川503  
TEL:0596-52-1732 / FAX:0596-52-7035 <https://www.pref.mie.lg.jp/MAIBUN/hp/>  
いなべ整理所  
〒511-0415 三重県いなべ市北勢町東貝野454番地  
TEL:0594-72-8955/FAX:0594-72-8970

# 東海環状自動車道 発掘調査だより

いなべ編 No.15

三重県埋蔵文化財センター

2022.12.3

## 弥生時代中期の生活跡を調査！ 《下平大野B遺跡》



弥生時代の掘立柱建物（西から） ※詳細は裏面をご覧ください。

### はじめに

三重県埋蔵文化財センターは、東海環状自動車道建設事業に伴い、令和元年度から、いなべ市北勢町下平・向平にある下平大野B遺跡の発掘調査を行っています。これまでの調査に引き続き、今回の第4次調査でも、弥生時代の遺構・遺物がみつきました。





## 今回の調査区



### 今回の出土遺物



壺 (つぼ)



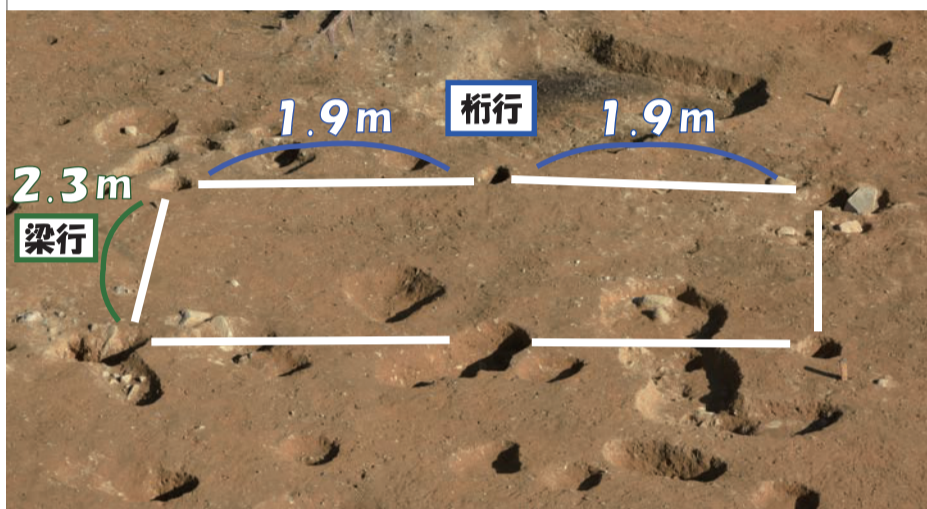
甕 (かめ)



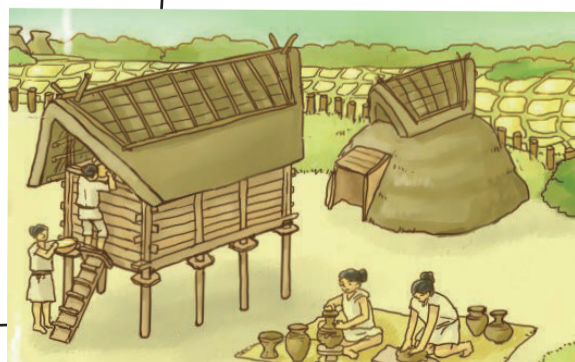
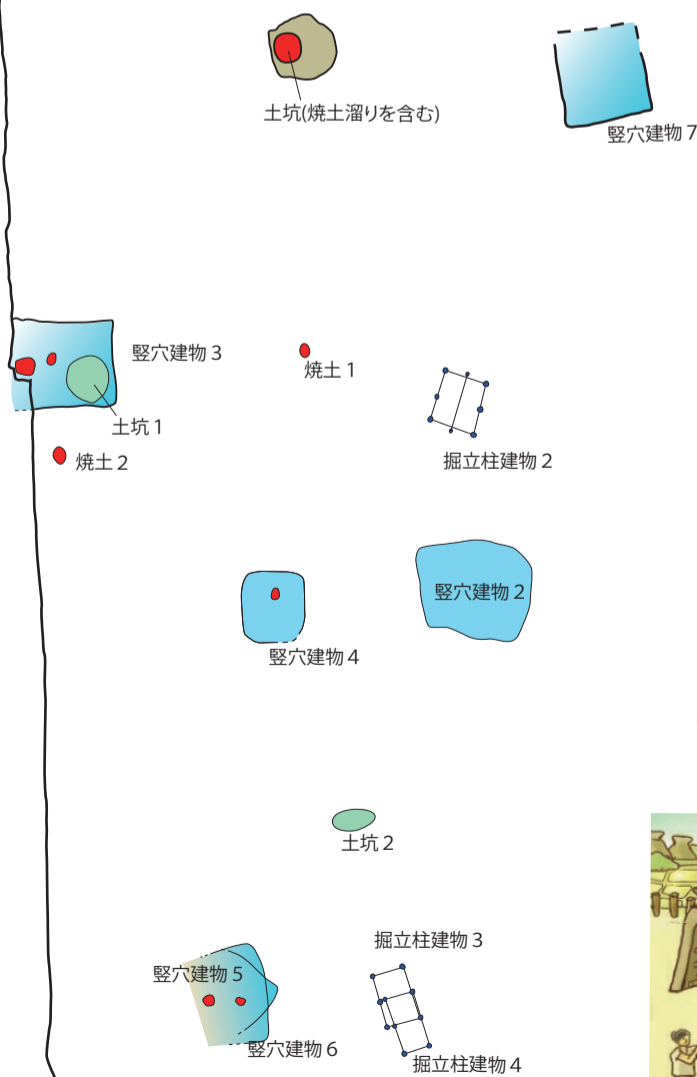
## 今回の調査でみつかった遺構

- ・ 今回の調査区では、1,300 m<sup>2</sup>の調査を行いました。
- ・ 遺構は、弥生時代の掘立柱建物 1 棟 [ 梁行 1 間 × 桁行 2 間 ] がみつかりました。 ※間は柱間の数
- ・ これまでの調査では、竪穴建物の近くで掘立柱建物を発見していますが、今回の調査区では、竪穴建物は確認できていません。
- ・ 近年の開墾などの影響を受けて、竪穴建物が削平されている可能性があります。
- ・ ただし、ピットは多数みつまっていることから、他にも竪穴建物や掘立柱建物が存在していた可能性も考えられます。

### 掘立柱建物 [西から撮影]



## 前回の調査区



竪穴建物と掘立柱建物の例 (想像図)

三重県埋蔵文化財センター作成

## 今回の調査でみつかった遺物

- ・ 今回の調査区では、弥生土器が数点出土しました。
- ・ 弥生土器には、煤が付着した甕、壺の口縁部、甕や壺の底部などがあります。
- ・ いずれも掘立柱建物の周辺でみつかっており、集落の人たちが使用していた土器であると考えられます。

※前回までの調査では、石錐などの石器やはく片(石器をつくる時に出る小片)も出土しています。

石錐 (チャート)



はく片 (サヌカイト)



はく片 (チャート)



はく片 (下呂石)

